

事務事業名	久保講堂施設維持管理事業				担当	教育委員会 文化課 文化財係			
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり				電話番号	0285-83-7731		
施策名	5	文化財の保護と継承				<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠	文化財保護法、真岡市久保講堂の設置、管理及び使用条例					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和61 年度～）			
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4社会教育費	2文化財保護費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）			
事業概要	国登録文化財「久保講堂」（昭和13年建築、昭和61年移築、平成9年5月7日登録）を適切に保存管理することで貴重な文化財を次の世代へ引き継ぐとともに、芸術文化団体の活動成果を展示公開する場として利活用する。								

1. 現状把握の部 （1）事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 24年度実績 建物及び敷地を適切に保存管理するため消防設備点検・機械警備・清掃等の業務を委託したほか、16団体・延べ17,936人が利用した。 25年度計画 前年度に同じである。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア 清掃委託日数	日	6	6	6	6	6
	イ 警備日数	日	365	365	366	365	365
	ウ 修繕箇所数	箇所	1	5	5	2	2
	エ						
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 登録文化財「久保講堂」及び敷地、市民と市外からの来訪者。	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移						
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア 敷地面積	平方m	3,557.63	3,557.63	3,557.63	3,557.63	3,557.63
	イ 建築床面積	平方m	704.09	704.09	704.09	704.09	704.09
	ウ 市民数	人	82,997	82,584	82,136	81,511	80,929
	エ						
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 国の登録文化財を適切に保存管理するとともに、芸術文化団体の活動成果を展示公開する場として利活用する。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移						
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア 来場者数	人	4,250	3,540	13,421	17,936	18,000
	イ 利用日数	日	78	112	136	138	140
	ウ						
	エ						
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 文化財を保護継承し市民文化の向上に資する。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移						
	名称	単位	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(見込)
	ア 歴史や文化財に関心を持つ市民の割合	%	74.5	70.1	70.1	69.7	70.0
	イ 文化財を大切にしたいと感じている市民の割合	%	95.4	92.3	92.4	92.4	92.4
	ウ						
	エ						

(2) 総事業費の推移		単位	21 年度(実績)	22 年度(実績)	23 年度(実績)	24 年度(実績)	25 年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0
			その他	千円	0	0	0
			一般財源	千円	559	599	0
			事業費計（A）	千円	559	599	0
	人件費		正規職員従事人数	人	1	1	0
			延べ業務時間	時間	16	32	0
			人件費計（B）	千円	65	134	0
			トータルコスト(A)+(B)	千円	624	733	0

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか。	真岡小学校体育館が完成し久保講堂解体の方針が決定されたところ、文化的価値が高いとして同校卒業生を中心とした市民の存続活動が広がり、昭和61年度、市民の芸術文化向上を目的に現用地へ移築し保存管理と有効活用を図ってきた。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平成9年に国の登録文化財となり市外からの来訪者が増加したほか、芸術文化団体の成果発表の会場として利活用されている。 また、平成23年度には東日本大震災により被災した金鈴荘に替り「真岡浪漫ひな祭り」の会場となり利用者が大幅に増加した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	講演会、室内楽のコンサート会場などへの利用要望がある。

2. 1 次評価の部 ＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 文化財の保護のみでなく芸術文化の向上にも資する。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市が所有する国の登録文化財を保存管理するものである。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 文化財の保存とともに市民の芸術作品の展示会場として有効利用をしている。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 文化財を適切に保存管理するとともに、市民の文化的向上に資するものである。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 文化財を保護継承することは所有者である市の責務である。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） <input type="checkbox"/> 類似事業はない 他に類似の事業はない。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 保存管理に要する必要最小限の経費である。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか （アウトソーシングなど）	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 保存管理に要する必要最小限の業務である。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市有文化財の保存管理は市の責務である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し（ <input type="checkbox"/> ：目的妥当性 <input type="checkbox"/> ：有効性 <input type="checkbox"/> ：効率性 <input type="checkbox"/> ：公平性） <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の 2 次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足（説明責任不充分） <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上																								
	維持																								
	低下																								
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																									
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項																								